

平成26年9月24日

日本原子力発電株式会社

本日（9月24日）の原子力規制委員会の定例会見における
更田委員長代理の発言について
（当社コメント）

本日の原子力規制委員会の定例会見において、当社敦賀発電所の敷地内破砕帯の調査に関する記者からの質問に対し、更田委員長代理から「事業者の方の対応も大きく進捗に係わってくると思います。ある結論が出ようとする、また追加の結果ということになって、またそこで取りまとめになろうとすると、追加の調査結果ということになる。ずっと続く形になる訳ですけども・・・」との発言がありました。

このことに関する事実関係は以下のとおりであります。

1. 敦賀発電所の敷地内破砕帯の調査については、当社は、昨年7月に当初の予定どおり、原子力規制委員会に「敦賀発電所敷地内破砕帯の調査に関する報告書」を提出いたしました。当社はこれにより、当該破砕帯が活断層（将来活動する可能性のある断層等）ではないことを科学的に十分証明できているものと確信しております。また、当社の評価内容については、国内外の多くの専門家から支持を得ております。
2. その後、本年1月の有識者等による現地調査や、それに続く4月からの追加調査評価会合において、有識者の方々から様々な疑問や質問等が出されました。それらについて回答を求められたことから、当社はそれらに真摯に対応すべく、補完的な分析等を行うなど、データ等を更に拡充して、随時提示してきたものであります。

なお、資料の提示にあたっては、その都度、原子力規制庁事務局と事前に十分に調整を行い、ご了解を得て行っております。

当社は、拡充された最新のデータ等は、有識者の方々からの疑問や質問等に対応するものであり、また、評価会合において評価、判断する上で極めて重要なものであると考えております。今後の審議にあたって、最新のデータ等も含めて十分な科学的議論を行っていただきたいと考えております。

以 上